2026 年 11 月 1 日　BMCN 年次大会　午後の部　発表要旨

「日本語を学ぶ」から「日本語で地域とつながる」へ
―中西部の継承日本語学習者を支える地域型学習環境の構築―

イレレジ羽太礼子（ボール・ステイト大学、JASI 日本語学習サポートグループ）

米国中西部では、大都市圏と比較して日本人、日系人コミュニティが小さく、継承日本語を学ぶ子どもたちが日常的に日本語を使用したり、日本文化や日本語話者と継続的に関わったりする機会が限られている。このような環境では、家庭や補習校等における日本語学習に加え、学習者が「日本語を使いたい」「日本語を学び続けたい」と感じられる学習環境を地域全体で構築することが重要である(カミンズ・中島2021)。継承語教育においても、地域型体験学習(Community-based Experiential Learning) の重要性が指摘されている (Guerrero-Rodriguez,et.al.,2021)。また、言語学習だけでなく、学習者のアイデンティティや所属意識を考慮した学習環境の構築が課題となっている(Bankston & Zhou, 1995; Portes and Rumbaut, 2001)。

本実践は、継承日本語教育を家庭や学校だけの取り組みとして捉えるのではなく、大学、学校、家庭、地域団体が連携して支える地域型の学習環境として捉えることを目的とする。

本実践報告は、継承日本語学習者への教育効果を検証する研究ではなく、日本人が少ない米国インディアナ州において、日本語を学ぶ子ども」から、「日本語で地域とつながる子ども」、「日本語で自分の地域・文化を発信する子ども」になり、最終的には、「日本語を媒介に異なる地域・文化の人々とつながるグローバル市民」を育成することを目指す、地域型学習環境の構築の様子について発表する。数人の継承日本語学習者の親たちが 2021 年頃から始めた文化イベントが、現在、州内の大学の日本語プログラムと地域の日本語教育・交流機関が連携し、継承日本語を学ぶ子どもとその家族を対象とした月例の日本語・日本文化イベントを実施について報告する。具体的に、最近の 2025 年 8 月から 2026 年 9 月までの 1 年間活動では、平和学習、秋祭り・盆踊り、お月見、練り切り、お正月、節分、よさこい、火山、十五夜・お彼岸、キッズ・ゲルニカ等、季節、食、芸術、身体活動、歴史、平和など多様なテーマを扱った。このような活動では、単に日本文化について説明するのではなく、子どもたちが日本語を使いながら、踊る、作る、食べる、遊ぶ、話す、協働することで、Global Competence の考え方とも重なる(OECD, 2019)。

さらに、今年度実践では「日本文化を学ぶ」ことから「自分の文化や地域を日本語で表現する」ことへの発展を意識した。例えば、子どもたちがインディアナ州について日本語でクイズやカルタを作成し、それを他地域・海外の継承日本語学習者との交流に活用した。また、平和をテーマとしたキッズ・ゲルニカでは、子どもたちが歴史や平和について考え、自分たちのメッセージを共同作品として表現する機会を設けた。このような活動を通して、日本文化の学習者としてだけでなく、自らの地域や文化に誇りを持って日本語で発信することを試みた(Cummins & Nakajima, 2021)。

実践を通して、継承日本語教育における文化活動を、言語能力を補完する付加的活動としてではなく、日本語を実際に使用し、仲間や家族、地域社会とつながり、自己を表現するための学習環境として捉えることの重要性が見えてきた。また、大学が地域の日本語教育をつなぐ拠点となることで、継承日本語学習者への支援に加え、地域における日本語教育への理解を広げる可能性も見えてきた。今後は、日米協会、日本語補習校、地域の K-12 の日本語教育関係

者、大学の日本語プログラム等との連携をさらに強化し、継承日本語教育への地域の理解を深めるとともに、地域の World Language 教育の継続・発展を支える地域型の協働体制の構築を目指す。本実践を通して、継承日本語教育における文化活動を、言語学習を補完する付加的活動としてではなく、日本語を実際に使用し、仲間や家族、地域社会とつながり、自己を表現するための学習環境として位置づける可能性が見えてきた。一方で、現時点では参加者の学習意欲やアイデンティティ形成、Global Competence への影響を実証的に検証するデータは得られていない。今後は、参加者へのアンケートやインタビュー等を通して、こうした地域型の活動が学習意欲の継続、地域とのつながり、アイデンティティ形成、Global Competence の育成にどのように関わるのかを検討して行きたい。

参考文献

ジム・カミンズ & 中島和子(2021)『言語マイノリティを支える教育（新装版）』明石書店

Bankston, C.L. & Zhou, M.(1995)Effects of minority-language literacy on the academic achievement of Vietnamese youths in New Orleans. *Sociology of Education, 68*, 1-17.

Guerrero-Rodriguez, P., Ojeda, A., and Pascual y Cabo, D. (2021). Issues and practices in community-based experiential learning for heritage speakers in the United States. In S. Montrul & M. Polinsky (Eds.), □e Cambridge handbook of heritage languages and linguistics. Cambridge University Press, 851–866.

Kondo-Brown, K. (2025). Japanese as a Heritage Language Education in the United States: Issues and Future Agenda. In P. Romanowski (Ed.), *The Cambridge Handbook of Multilingual Education* (pp. 669–686). chapter, Cambridge: Cambridge University Press.

OECD (2019), *PISA 2018 Assessment and Analytical Framework*, PISA, OECD Publishing, Paris, https://doi.org/10.1787/b25efab8-en

Portes, A. & Rumbaut, R.G. (2001). *Legacies; The Story of the Immigrant Second Generation.* Berkeley: University of California.

種別：実践報告